

新技術情報名	超早期母子分離後も母牛の増飼を継続することで繁殖成績が向上する				
[要約] 超早期母子分離を行った母牛でも、分娩後 1 か月間増飼を継続することで、初回種付日が有意に早くなる。					
畜産試験場・大家畜部・大家畜研究担当			連絡先	0954-45-2030 chikusanshiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	畜産専門部会	専門	飼養管理	対象	肉用牛

[背景・ねらい]

県内の繁殖和牛農家においては、分娩間隔の長期化が問題視されている。その主な原因として分娩後の子宮回復の遅延、発情微弱による発情発見率の低下などが考えられる。これに対し、分娩後の繁殖機能の早期回復方法の 1 つとして、超早期母子分離法の導入が推進されているが、母子分離後の母牛の適正な栄養水準についての知見は少ない。

そこで、超早期母子分離を行った繁殖牛において、子宮の早期回復及び繁殖成績の向上による分娩間隔の短縮を目的として、母子分離後から維持期飼料を給与する通常の超早期母子分離を行った母牛群に対し、母子分離後も増飼を一定期間継続する母牛群を設置して繁殖成績の比較を行う。

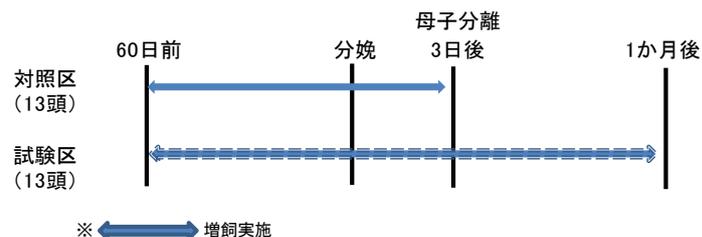
[成果の内容・特徴]

1. 本成果では、図 1 に示す給与方法で、表 1 に示す飼料を給与する。
2. 母子分離後も増飼を継続した群では、初回種付日（子宮の回復が完了し、明瞭な発情兆候が確認できた日）が有意に短縮する（表 2）。
3. 血液中成分値では、増飼を継続した群で、分娩後 T-cho 及び BUN が低下することなく推移する（図 2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果で過肥牛は見られなかったが、実施時は飼料計算を行い、過肥に注意する。

[具体的データ]



給与方法：対照区は通常の超早期母子分離法通り分離後は維持期養分量の飼料を給与。試験区は分娩後1か月間増飼を継続。

図1 給与方法

表1 飼料内容

	飼料量 (kg)			充足率 (%)		
	DM	CP	TDN	DM	CP	TDN
対照区	5.49	0.49	3.70	91	102	123
試験区	8.13	0.87	5.67	135	181	188

※表は体重450kgの場合。母牛の体重に応じて養分量は調整した。
 ※維持期及び妊娠末期の維持養分量は日本飼養標準（2008）に準じる。
 ※産歴及び体重の平均±標準誤差は、対照区で5.3±0.7産、496.5±15.6kg、試験区で4.5±0.7産、453.3±16.5kgであった。

表2 繁殖成績

	初回種付日 (日)	初回受精受胎率 (%)	受胎率 (%)	80日以内 (%)
対照区	50.4±3.6 ^a	50.0	64.7	61.5
試験区	38.2±2.8 ^b	66.7	75.0	84.6

※平均±SE
 ※初回受精受胎率及び受胎率はAIのみ
 ※受胎率 (%) = 受胎頭数 / 総AI回数
 ※80日以内：分娩後80日以内に受胎した割合

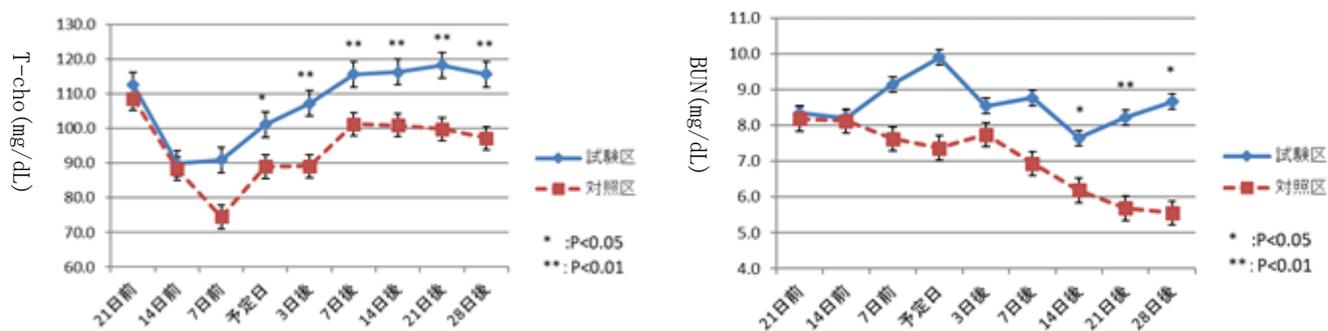


図2 血液中成分値

[その他]

研究課題名：繁殖成績向上のための飼養管理技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2016～2019 年度

研究担当者：井手口朝美、横尾直樹、加茂辰生